

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	だいにっぽんやまなしぶどうしゅがいしゃ 大日本山梨葡萄酒会社 かんれんしりょう 関連資料	未指定 (歴史資料)	明治 10 (1877) 年に創業した日本初の民間ワイン株式会社である同社の帳簿等で、初期醸造の様子がわかります。結果的に会社は解散してしまいましたが、失敗に至るプロセスは検証され、その後の民間ワイン会社の成功に貢献しました。	山梨県 甲州市
②	とこうせいやくしよ フランス渡航誓約書	未指定 (歴史資料)	大日本山梨葡萄酒会社ではワインの本場フランスに、高野正誠と土屋龍憲の二人を伝習生として派遣しました。この誓約書から二人が出発前に、技術の習得に全力を挙げることなどを会社に誓約していることがわかります。留学は当初 1 年間という計画でしたが、半年ほど超過し帰国しました。	山梨県 甲州市
③	めいじじゅうねんどうじゅういちねんちゅう 明治十年全十一年中 おうふくきろく 往復記録	未指定 (歴史資料)	高野正誠と土屋龍憲の二人の伝習生が記した書簡を日誌として書き留めていたもので、明治 11 (1878) 年 11 月 17 日まで、13 ヶ月の出来事が書かれています。期待に胸をふくらませ渡仏し、言葉や文化にとまどいながらも、一生懸命伝習に努めていた様子がわかります。	山梨県 甲州市
④	きこうせんちゅうにつき 帰航船中日記	未指定 (歴史資料)	フランスからの帰りの航海日記で、船からみえる風景や寄港地の様子が記されています。1 年以上にも及ぶ伝習活動ややブドウ・ワインについての記述が少ないことから、心底安堵していた心境がうかがえます。	山梨県 甲州市
⑤	ぶどうさんせつ およ 『葡萄三説』及び ぶどうさんせつそうこう 葡萄三説草稿	未指定 (歴史資料)	渡仏した高野正誠が、ワインの本場フランスで学んだ理念や知識、栽培や醸造に関する道具類までも記した技術書。明治 23 (1890) 年に出版されると、たちまちワイン醸造を志す者の良き教科書として、全国に普及しました。草稿には、渡仏を手引きした前田正名による朱書きの校正が記入されています。	山梨県 甲州市
⑥	ぶどうさいばいならびにぶどうしゅ 葡萄栽培 并 葡萄酒 じょうぞうはんほん 醸造範本	未指定 (歴史資料)	フランスでの伝習活動を終了した土屋龍憲が、三田育種場長の前田正名に提出した伝習の報告書。渡仏しワイン醸造を学んでくるという壮大な計画には、明治政府の絶大な協力があつたことを示す資料です。	山梨県 甲州市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑦	めいじ 12 年産の日本ワイン 明治12年産の日本ワイン	未指定 (生活文化)	高野正誠と土屋龍憲がフランスから帰国した明治 12 (1879) 年に醸造された最古の日本ワイン。140 年前に日本ワインを醸造しようとした関係者の、夢と情熱の結晶であり、永久保存を考慮し、松やにで密封されています。	山梨県 甲州市
⑧	りゅうけん 龍 憲 セラー	国登録有形 (建造物)	明治期に造られた半地下式煉瓦造ワイン貯蔵庫で、煉瓦積みの技術及び煉瓦は、鉄道敷設に伴い建設された旧大日影隧道などと同じです。最先端の技術を、ワインの品質管理のためセラーに応用しており、当時の醸造家たちの意気込みが感じられます。	山梨県 甲州市
⑨	だいこくてんしるしかいさんぶどうしゅ 大黒天印甲斐産葡萄酒 かいさん ぶどうしゅ と甲斐産エビ葡萄酒	未指定 (生活文化)	宮崎光太郎は明治 19 (1886) 年に「大黒天印甲斐産葡萄酒」を醸造しますが、さらに醸造法を改良し明治 21 (1888) 年から醸造を軌道に乗せることができました。その後、甘味葡萄酒の「エビ葡萄酒」、滋養葡萄酒の「薬用帝国葡萄酒」などのベースとしても使われました。	山梨県 甲州市
⑩	はちじるしこうざんぶどうしゅ 蜂 印 香 竈 葡萄酒	未指定 (生活文化)	日本を代表する甘味葡萄酒で、神谷傳兵衛は輸入ワインにハチミツや漢方薬を加え日本人好みの味に改良しました。明治 14 (1881) 年に発売され、ヒット商品となり、牛久シャトー建設の資金源にもなりました。	茨城県 牛久市
⑪	はちじるしこうざんぶどうしゅはんばい 蜂 印 香 竈 葡萄酒 販売 せんでんよう 宣伝用ポスター	未指定 (歴史資料)	明治 14 年に発売が開始された蜂印香竈葡萄酒の販売宣伝用ポスター。商標や商品を前面に押し出すのではなく、中心には女性を配し、蜂や葡萄描くなど、全体的にイメージを優先したデザインです。	茨城県 牛久市
⑫	牛久シャトー所蔵資料	未指定 (歴史資料)	明治～大正期に神谷葡萄園を訪れた芳名録や神谷傳蔵 (2 代目神谷傳兵衛) がヨーロッパ留学から持ち帰った葡萄栽培及びワイン製造関連の文献資料、明治天皇葡萄献上時書状や当時の古写真などが保管されています。	茨城県 牛久市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑬	かみやぶどうえんじっそくず 神谷葡萄園実測図	未指定 (歴史資料)	明治～大正期の神谷葡萄園(現在の牛久シャトー)の実測図で、明治～昭和期までの4枚が現存しています。敷地の用途により色分けされていて、当時の広大な葡萄園の土地利用と醸造場建物の位置がわかる貴重な資料です。	茨城県 牛久市
⑭	シャトーカミヤ きゅうじょうぞうじょうしせつ とう 旧醸造場施設3棟 (旧事務室・旧 きゅうじむしつ きゅう はっこうしつ きゅうちよぞうこ 醗酵室・旧貯蔵庫)	国重文 (建造物)	明治36(1903)年に神谷傳兵衛が建設した日本初の本格的ワイン醸造場(牛久シャトー)。ヨーロッパの古城を思わせる旧事務室など、明治時代の洋風ワイナリーの世界を体験することができます。	茨城県 牛久市
⑮	うしくぶどうしゅ 牛久葡萄酒・ かつこくはくらんかいじゆしよはい 各国博覧会受賞牌	未指定 (歴史資料)	100年以上前に牛久シャトーで生産された葡萄酒。未開封の状態に残されている。明治時代のイギリスやフランスで開催された博覧会に出品し、金賞を受賞していることから、海外においても高く評価されていたことがわかります。	茨城県 牛久市
⑯	シャトーカミヤ きゅうじょうぞうじょうしせつじょうぞう 旧醸造場施設醸造 ようぐ 用具	未指定 (有形民俗文化財)	明治期のワイン醸造の様子を物語る醸造用具。当時の醸造工程に本場フランスの先端技術を導入していることがわかります。	茨城県 牛久市
⑰	かみやぶどうえん きどう 神谷葡萄園トロッコ軌道 あと 跡	未指定 (史跡)	神谷葡萄園内に敷設されていたトロッコ軌道跡。現在は生活道路として利用されており、当時の面影を残しています。	茨城県 牛久市
⑱	きゅうみやざきぶどうしゅじょうぞうじょう 旧宮崎葡萄酒醸造場 しせつ みやこうえん 施設(宮光園)	市指定 (建造物)	明治25(1892)年に宮崎光太郎が私邸に建設した醸造場で、後に観光ブドウ園もあわせて宮光園と称しました。白蔵は勝沼駅新設前年の大正元(1912)年、白ワイン増産のため新築され、現在は甲州市が公開・活用をしており、日本におけるワイン産業黎明期のワイナリーの特徴を知ることができます。	山梨県 甲州市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①9	みやこうえんしりょう 宮光園資料	未指定 (歴史資料)	宮光園に所蔵されている皇族をはじめ多くの著名人の名が記された芳名録や帳簿等の資料、及び「甲斐産葡萄酒」「大黒天印甲斐産葡萄酒」のラベル等の資料、皇族来訪時の写真資料等。特にラベル類は多種多様であり、甘味・薬用ワインのものが多くことから、老若男女をターゲットとして商品開発をしていたことがわかります。	山梨県 甲州市
②0	みやこうえん 宮光園35mmフィルム	未指定 (歴史資料)	宮光園主屋修理中に発見された 35mm映画フィルム。大正時代のブドウ栽培、ワイン醸造、観光ブドウ園の様子が記録されています。当時としては画期的な、動画を宣伝媒体として使用していました。	山梨県 甲州市
②1	メルシャンワイン資料館 しりょうかん しゅうぞうひん 収蔵品	未指定 (有形民俗文化財)	明治～大正時代の、大規模醸造にかかわる用具が収集・展示されています。これらは宮光園に伝わる写真や映像により、使用されている様子が記録されており、当時の醸造技術を知るうえで貴重な資料です。	山梨県 甲州市
②2	でんどう 伝統あるワイナリー ・原茂ワイン店舗兼主屋 ・原茂ワイン東蔵・西蔵 ・原茂ワイン奥蔵 ・丸藤葡萄酒工業旧醸造蔵 ・丸藤葡萄酒工業瓶貯蔵庫 ・勝沼醸造主屋兼事務所 ・勝沼醸造樽貯蔵庫 ・くらむぼんワイン旧主屋 ・くらむぼんワインセラー	国登録有形 (建造物)	日本ワインの黎明期を物語る、創業100年の歴史をもつワイナリー。その多くが和風建築のワイナリーで、ワイン産業が勝沼地域の地場産業として定着したことを物語る他の生産地にはない特徴です。伝統的な主屋は事務所・売店として、土蔵や養蚕主屋はセラーとして使われています。	山梨県 甲州市
②3	かつぬま 勝沼のぶどう栽培用具 さいばいようぐ および葡萄酒醸造用具 およぶどうしゅじょうざうようぐ	登録有形 民俗文化財 (有形民俗文化財)	大正時代頃から現代まで使用されてきたブドウ栽培とワイン醸造に関する用具類で、機械化や改良などにより使用されなくなった旧式の資料で、勝沼におけるワイン醸造の歴史を物語る貴重な資料です。	山梨県 甲州市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
②④	かしおさんだいぜんじ 柏尾山大善寺	国宝 (本堂)	養老2(718)年開創と伝わる古刹で、関東最古の本堂は国宝に、本堂内に安置される本尊など3件17軀の仏像は重要文化財に指定されています。ブドウ発祥の伝承があるうえ、境内で栽培されたブドウを使ってワインを醸造し、寺で提供しています。まさに甲州市勝沼を象徴する寺院です。	山梨県 甲州市
②⑤	だいぜんじ 大善寺のワイン文化	未指定 (無形民俗文化財)	明治中期に、ブドウとワインの地産地消を図るため「葡萄酒愛飲運動」が興り、日本酒からワインへの切り替えが進みました。柏和葡萄酒を経営している大善寺では、住職と檀家がワインを醸造し、祭事・神事には御神酒として必ずワインが振る舞われ、勝沼の地にワイン文化が根付いていることを示しています。	山梨県 甲州市
②⑥	いわいぼし 祝橋	登録有形 (建造物)	昭和6(1931)年に建設されたコンクリートアーチ橋で、地元では眼鏡橋の愛称で親しまれています。以前は木造の吊橋でしたが、コンクリート造への変換により、ブドウ・ワインの勝沼駅への大量輸送が可能となりました。	山梨県 甲州市
②⑦	きゅうおおひかげつどうずいどう 旧大日影鉄道隧道・ きゅうふかさわてつどうずいどうおよ 旧深沢鉄道隧道及び しゅうへん ずいどういこう 周辺の隧道遺構	未指定 (建造物)	明治35(1902)年に開通した旧中央本線煉瓦造トンネル。鉄道開通はブドウ・ワインの東京への大量輸送を可能にしました。現在は軌道をそのまま残し、トンネルの構造を確認することができる施設としてのほか、勝沼トンネルワインカーヴ(貯蔵庫)として保存活用されています。	山梨県 甲州市
②⑧	うま みずの ば 馬の水飲み場	未指定 (有形民俗文化財)	大正2(1913)年に中央本線の勝沼駅開設後も駅までの輸送は馬に頼っていました。駅が高所に設置されたため、馬の労をねぎらうために道路の脇に石組の馬の水飲み場は、当時の苦労を物語ります。	山梨県 甲州市

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
②9	きゅうたなかぎんこうしゃおく 旧 田中銀行社屋 きゅうたなかぎんこうどぞう 旧 田中銀行土蔵	登録有形 (建造物)	明治 30 (1897) 年に勝沼郵便電信局として建築され、大正 9 (1920) 年に銀行類似会社山梨田中銀行となり、その際煉瓦造土蔵が建てられました。醸造用ブドウの大量買付けに出資するなど、各社のワイン増産体制を支えた会社の面影を残す貴重な建物です。	山梨県 甲州市
③0	かみやいなりじんじゃ 神谷稲荷神社	未指定 (生活文化)	ワイン生産と商売繁盛を祈願し、神谷傳兵衛の出身地にある現在の愛知県にある豊川稲荷から、シャトー開設前年の明治 35 (1902) 年に勧請しました。神谷傳兵衛のワイン生産の決意をうかがえる場所です。	茨城県 牛久市
③1	かみやでんべえぼ ちあとおよ 神谷傳兵衛墓地跡及び かみやおきなきねん ひ 神谷 翁 記念碑	未指定 (史跡)	当初神谷葡萄園跡地の一角に神谷傳兵衛の墓地はありましたが、その後墓は東京に移され、現在は日本のワイン翁を称える記念碑が残されています。碑は地元住民が建てたもので、神谷傳兵衛の偉業を称えたものです。	茨城県 牛久市
③2	きゅうみやざきぶどうしゅじょうぞうじょう 旧 宮崎葡萄酒醸造場 しせつ みやざきだいにじょうぞうじょう 施設 (宮崎第二醸造場)	県指定 (建造物)	明治 37 (1904) 年建築の宮崎葡萄酒の第二醸造場で、現在はメルシャンワイン資料館として公開されています。明治 36 年の鉄道開通による需要増加を見込んで建築されましたが、牛久醸造場の建設に刺激された可能性があります。	山梨県 甲州市